



創刊 會津 八一

発行所 新潟日報社

〒950-8535  
本社 新潟市中央区万代3-1-1  
〒950-1189  
黒埼本社 新潟市西区善久772-2

# わが社の戦略

ものづくりに欠かせない金属加工機械や精密工具などを調達し、メーカーに販売する商社「昭栄産業」(新潟市中央区)はことし、創業75周年を迎えた。ロボットなど最新の商品を取りそろえ、技術革新が進む市場のニーズへ対応を図る。

## 昭栄産業 (新潟市中央区)

同社は1941年、平沢利明社長(65)の父である故・平沢藤夫前社長が東京で創業した機械工具商が前身だ。戦争の影響で一時休業したが、終戦後、知人から「新潟県に行けば農機具部品の需要がある」と教えられ、46年に新潟市(旧白根市)に移って事業を再開した。50年以降、工具や工作機械の大手メーカーと代理店契約を結び事業規模を拡大した。現在、東京や名古屋、県内のメーカーなど約300社から製品を仕入れ、県内外の業者千社以上へ販売。仲介機能を発揮することでも製品の品質を理解してもらったため、顧客を製品展示会やメーカーの工場

## 機械工具専門商社



タブレット型パソコンを組み立てるロボットなどが展示された昭栄産業の展示会  
11月4日、三条市



「常に顧客本位で活動している」と語る平沢利明社長  
=新潟市中央区の本社

## 新技術と人間力 武器に

見学へ積極的に案内している。稼働時の音や振動などを顧客に体感してもらったためだ。平沢社長は「町工場の社長は、モーターの音を聞いただけで機械の良しあしが分かる」と実感を込める。メーカー60社余りが出品した4月の製品展示会では、人間の腕のように動くアームを持つロボットを自立的に配置した。近年は比較的安価で操作も簡単なロボットが増え、電子機器組み立てなどに広く利用されるようになった。中国製品との価格競争激化や人手不足などを背景に、製造業界ではロボットへの関心が高まっている。平沢社長は「売りに上げるに占めるロボットの比率はまだ低いけど、今後は伸びるだろう」と市場動向を注視する。国の省エネ補助金が追い風となって製造業者の設備更新が進み、2016年6月期の売上高は過去最高の60億円(台半)は見込む。今後、機械金属関連の大手企業が多数立地し、需要が旺盛な上中越での営業を強化する考えだ。平沢社長は「最後はやっぱり社員の人間力。顧客の悩みを一緒に考えて、解決を図る姿勢が大事だ」と強調している。

**概要** 昭栄産業 1941年、東京で平沢藤夫氏が前身の機械工具商社「昭和精工社」を創業。46年、本県で事業再開。47年に現在の「昭栄産業」を設立、本社を新潟市に置く。83年、長岡市に長岡営業所を開設。2015年6月期の売上高は約54億円。従業員数は44人。